

大鏡 三舟の才

ある年

が

で 舟遊びを なさつ

になつて

お 分け なさつ

た 時

①ひととせ、入道殿の、大井川に逍遙せさせ 紿ひしに、

漢詩文

作文の舟・管弦の舟・和歌の舟と分かたせ 紿ひて、

それら すぐれて いる その道にたへたる人々を乗せさせ 紿ひしに、

②この大納言殿の参り給へるを、

単純接続

が 参上 なさつたので

お 乗せ になつたが に、

乗せ になつたが に、

③入道殿、「かの大納言、いづれの舟にか乗らるべき。」

乗りなさ だらう か

おつしやつた ので とのたまはすれ ば、

おつしやつた ので とのたまはすれ ば、

大納言殿(公任)は

ましよ う

おつしやつ

お

になつた 歌

になつた なんですよ

④「和歌の舟に乗り侍らむ。」とのたまひて、よみ給へるぞかし、

が 寒い ので 寒ければ 紅葉の錦着ぬ人ぞなき

山がみんな紅葉の錦を着てているようだ

すばらしい歌を

お詠みになつた ものですなあ

の

の

の

の

の

を

ない は いない

な

な

な

が あつ

なさつた 甲斐

願い出で なさつた 甲斐

申し受け 給へる かひ

あり て、あそばし たり な。

終助・詠嘆

